

平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書
(別添資料)

平成 22 年 6 月
室蘭工業大学

目 次

資料 1-1-1	JABEE 申請・認定年月	1
資料 1-1-2	「英語プレゼンテーション」・「異文化理解特論」受講者数	1
資料 1-1-3	大学院学生に対する学会発表支援制度実施状況	1
資料 1-2-1	高校訪問実施状況	1
資料 1-2-2	「英語 A」の授業評価アンケート結果	2
資料 1-2-3	全大学の在学生に対する体験学生数比	2
資料 1-3-1	授業への関心・興味度及び総合的満足度に関する アンケート結果	3
資料 1-4-1	奨学金等支給実績一覧	4
資料 2-1-1	教員組織（研究組織）における新旧対照表	5
資料 2-1-2	学術研究活動の状況（平成 20、21 年度）	6
資料 2-1-3	環境・エネルギーシステム材料研究機構（OASIS）組織図	7
資料 2-1-4	査読付き論文・国際会議 Proceedings 数一覧 （平成 16～19 年度）	8
資料 2-1-5	グループ研究評価項目	9
資料 2-2-1	FEEMA 施設利用状況	9
資料 2-2-2	センター等評価システム	10
資料 3-1-1	蘭岳コンサート実施状況	12
資料 3-1-2	平成 21 年度胆振・日高管内高大連携協議会議事要旨（抜粋）	12
資料 3-1-3	国際学術交流協定機関一覧	13
資料 3-1-4	シップリサイクル研究ポスター	14

資料 1-1-1 JABEE 申請・認定年月

申請学科・コース名	既認定期間	申請年月	認定年月	認定期間
建設システム工学科 土木コース	平成 16. 4～21. 3	平成 21 年 4 月	平成 22 年 5 月	平成 21. 4～24. 3
建設システム工学科 建築コース	—	平成 20 年 4 月	平成 21 年 4 月	平成 20. 4～26. 3
機械航空創造系学科 機械システム工学コース	平成 16. 4～21. 3	平成 21 年 4 月	平成 22 年 5 月	平成 21. 4～24. 3
情報工学科 昼間コース	—	平成 20 年 4 月	平成 21 年 4 月	平成 20. 4～23. 3
電気電子工学科 昼間コース	平成 18. 4～20. 3	平成 20 年 4 月	平成 21 年 4 月	平成 20. 4～23. 3
材料物性工学科 応用物理コース	—	平成 20 年 4 月	平成 21 年 4 月	平成 20. 4～23. 3
材料物性工学科 材料工学コース	—	平成 20 年 4 月	平成 21 年 4 月	平成 20. 4～23. 3
応用化学科	—	平成 19 年 4 月	平成 20 年 5 月	平成 19. 4～24. 3

(出典：教務課資料)

資料 1-1-2 「英語プレゼンテーション」・「異文化理解特論」受講者数

	平成 20 年度	平成 21 年度
英語プレゼンテーション	84	102
異文化理解特論 a、b、c、d、e、f	121	217

(出典：教務課資料)

資料 1-1-3 大学院学生に対する学会発表支援制度実施状況

平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
206 名	238 名	218 名
6, 180, 000 円	7, 140, 000 円	6, 540, 000 円

(出典：地域連携推進課資料)

資料 1-2-1 高校訪問実施状況

年 度	訪問高校数	参加人数
平成 20 年度	145	2, 113
平成 21 年度	123	2, 554

(出典：入試課資料)

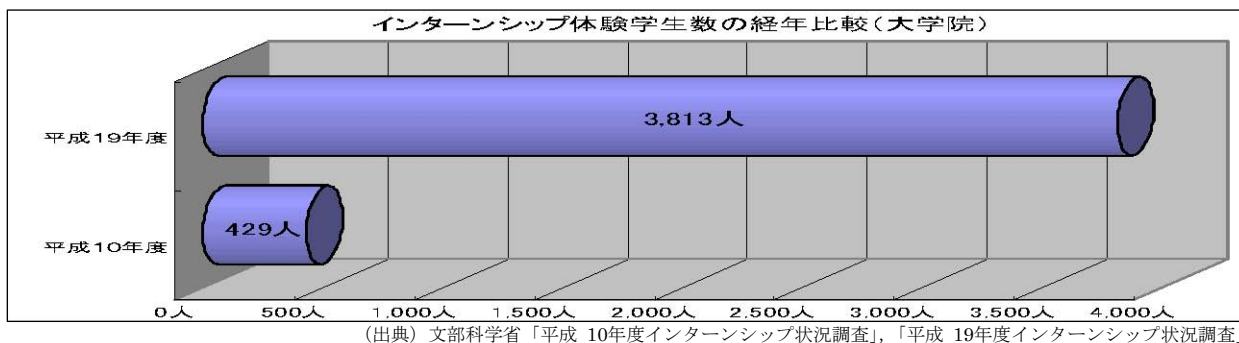
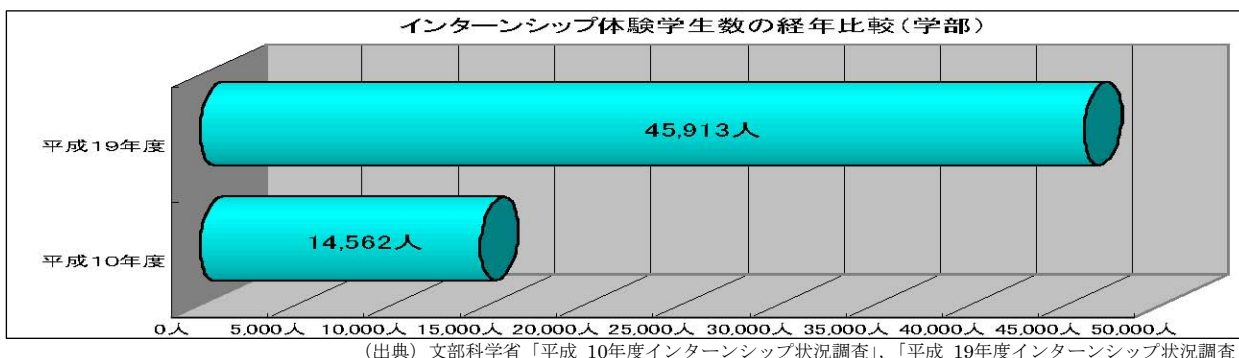
資料1-2-2 「英語A」の授業評価アンケート結果

	平成18年度前期 (12クラス)	平成19年度前期 (12クラス)	平成20年度前期 (22クラス)	平成21年度前期 (20クラス)
5段階評価の4点以上の割合 (%)	16.7	25.0	22.7	35.0
平均 (点)	3.69	3.73	3.74	3.89

※ 平成21年度より30人の少人数教育
(出典: 「学生による授業評価」の分析結果報告書)

資料1-2-3 全大学の在学に対する体験学生数比

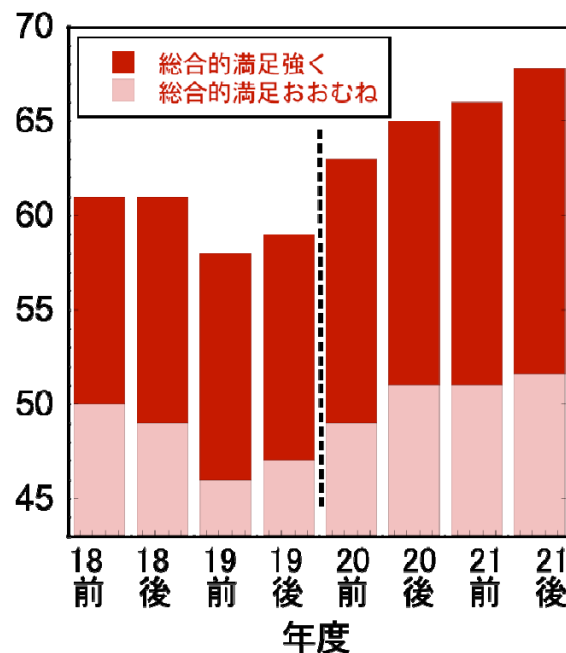
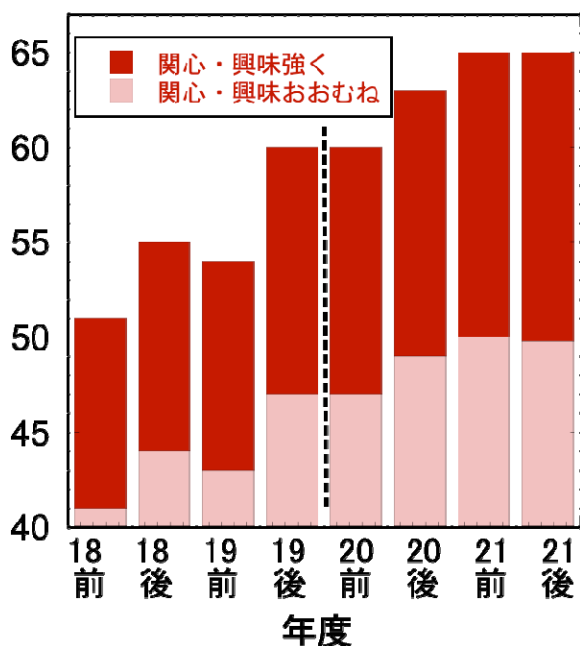
《在学に対する体験学生数比》	
・学部	平成10年度 0.6% → 平成19年度 1.8%
・大学院	平成10年度 0.2% → 平成19年度 1.5%



(出典: 文部科学省「インターンシップの導入と運用のための手引き
～インターンシップ・リファレンス～」(平成21年7月))

資料1-3-1 授業への関心・興味度及び総合的満足度に関するアンケート結果

全学生の授業への関心・興味度 [%] 全学生の授業への総合的満足度 [%]



問：学生の関心を高めるような授業・演習でしたか？

問：総合的にみて満足のいく授業・演習でしたか？

設問：A. 強くそう思う B. おおむねそう思う C. どちらともいえない D. あまりそう思わない E. 全くそう思わない

(出典：「学生による授業評価」の分析結果報告書)

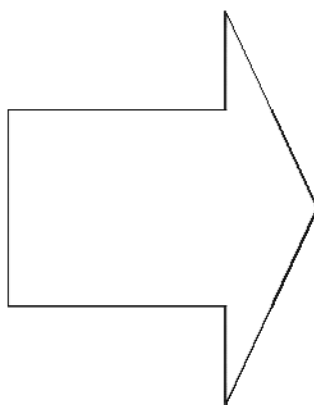
資料1-4-1 奨学金等支給実績一覧

名称	対象者	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
室蘭工業大学 優秀学生奨励金	学部3年次生 博士前期課程2年次生	円 4,200,000	円 3,600,000	円 1,800,000	円 1,850,000
		学部生 200,000 x 15名 MC学生 200,000 x 6名	学部生 200,000 x 12名 MC学生 200,000 x 6名	学部生 100,000 x 12名 MC学生 50,000 x 12名	学部生 100,000 x 12名 MC学生 50,000 x 13名
室蘭工業大学 緊急採用奨学金	学部4年次生 博士前期課程2年次生 博士後期課程3年次生		円 0	円 500,000	円 0
				500,000 x 1名	
室蘭工業大学 大学院博士後期課程 社会人学生奨学金	博士後期課程に在籍し ている社会人学生			円 11,251,800	円 13,127,100
				267,900 x 42名	267,900 x 49名
室蘭工業大学 私費外国人留学生支援 奨学金	正規課程に在籍する私 費外国人留学生	円 1,800,000	円 1,800,000	円 6,500,000	円 10,380,000
		600,000 x 3名	600,000 x 3名	600,000 x 8名 500,000 x 1名 300,000 x 4名	600,000 x 15名 300,000 x 4名 60,000 x 3名
室蘭工業大学 短期留学生(受入れ)支 援奨学金	交流協定校学生に在 籍する学生		円 2,000,000	円 3,900,000	円 1,850,000
			600,000 x 3名 200,000 x 1名	300,000 x 13名	300,000 x 4名 250,000 x 2名 150,000 x 1名
室蘭工業大学 東奨学金	国立高等専門学校から 本学に編入学した者			円 535,800	円 1,607,400
				133,950 x 4名	133,950 x 12名
室蘭工業大学 佐藤矩康博士記念国際 活動奨学賞	国際会議発表・海外イ ンターンシップ学生				円 600,000
					100,000 x 6名
年度合計		円 6,000,000	円 7,400,000	円 24,487,600	円 29,414,500

(出典：学生課・国際交流センター資料)

資料 2-1-1 教員組織（研究組織）における新旧対照表
旧

建設システム工学科
機械システム工学科
情報工学科
電気電子工学科
材料物性工学科
応用化学科
共通講座
(センター等)



新

くらし環境系領域
もの創造系領域
しくみ情報系領域
ひと文化系領域

(出典：企画・評価室資料)

資料 2-1-2 学術研究活動の状況 (平成20、21年度)

所属\区分	著 書		査読を受けた論文	
	平成20年度	平成21年度	平成20年度	平成21年度
建設システム工学科	7		63	
機械システム工学科	0		37	
情報工学科	2		18	
電気電子工学科	2		45	
材料物性工学科	1		44	
応用化学科	4		34	
共通講座	6		25	
センター等	1		14	
くらし環境系領域		15		140
もの創造系領域		2		116
しくみ情報系領域		8		55
ひと文化系領域		10		31
合 計	23	35	280	342

所属\区分	国際会議での Proceedings	
	平成20年度	平成21年度
建設システム工学科	29	
機械システム工学科	23	
情報工学科	36	
電気電子工学科	25	
材料物性工学科	15	
応用化学科	37	
共通講座	5	
センター等	5	
くらし環境系領域		70
もの創造系領域		103
しくみ情報系領域		31
ひと文化系領域		4
合 計	175	208

所属\区分	国際学会等発表		国内学会等発表	
	平成20年度	平成21年度	平成20年度	平成21年度
建設システム工学科	30		155	
機械システム工学科	11		143	
情報工学科	30		85	
電気電子工学科	42		85	
材料物性工学科	32		99	
応用化学科	45		114	
共通講座	18		31	
センター等	9		43	
くらし環境系領域		95		321
もの創造系領域		101		343
しくみ情報系領域		47		137
ひと文化系領域		18		40
合 計	217	261	755	841

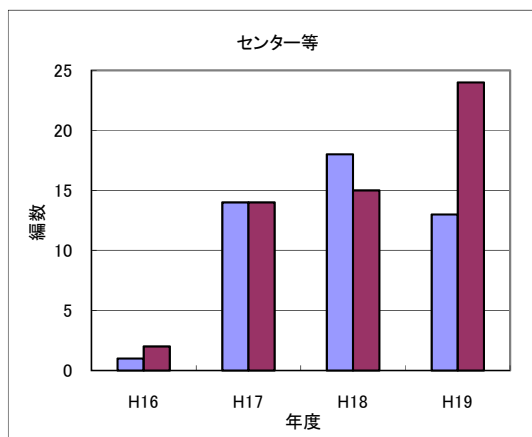
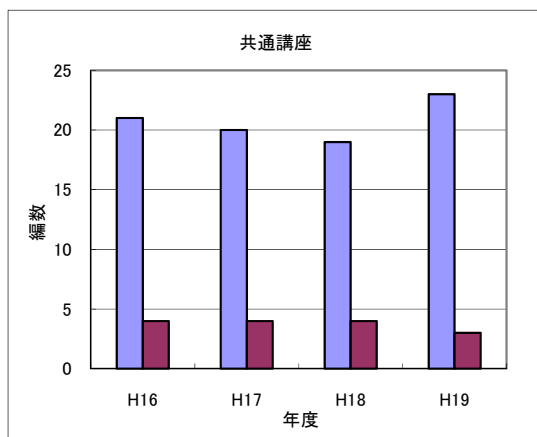
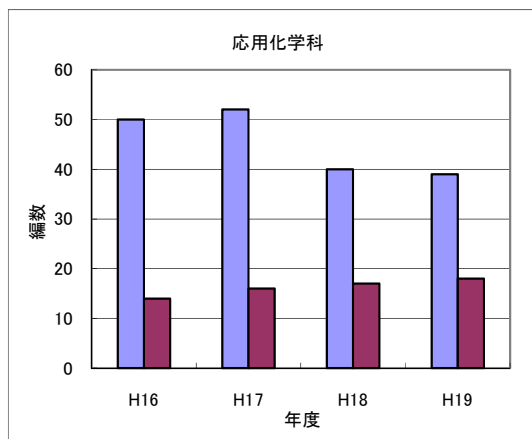
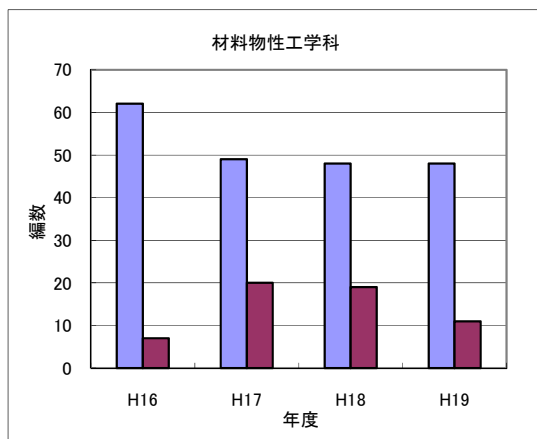
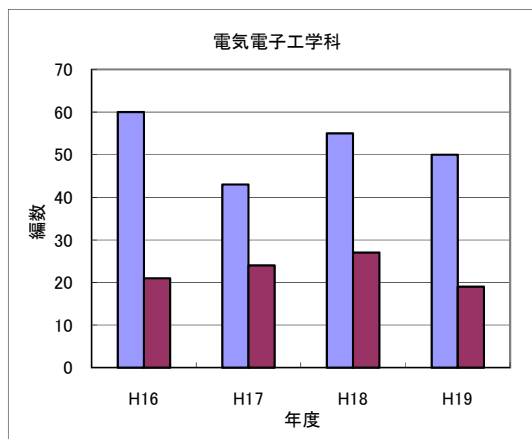
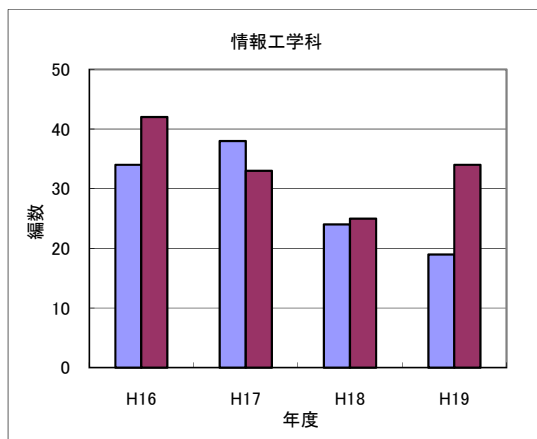
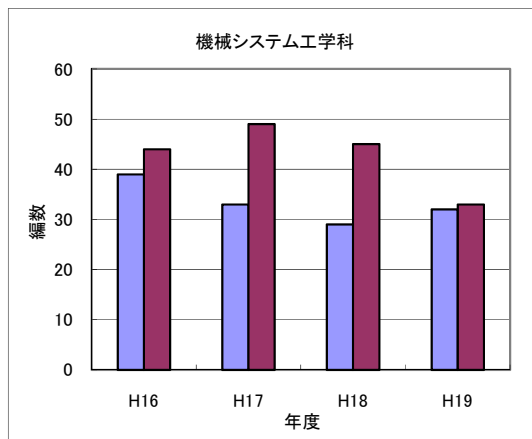
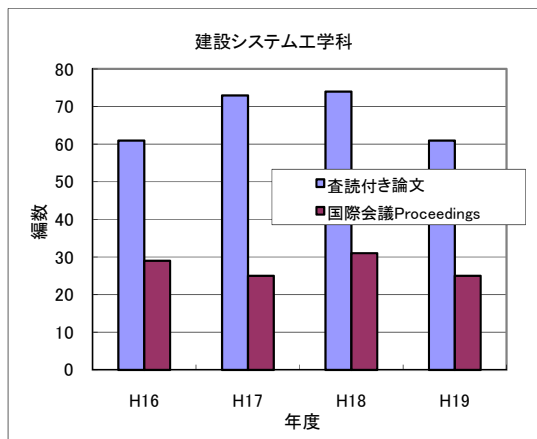
(出典：教員データベース)

資料 2-1-3 環境・エネルギーシステム材料研究機構 (OASIS) 組織図



(出典：環境・エネルギーシステム材料研究機構 (OASIS) 設置に関する報告書)

資料 2-1-4 査読付き論文・国際会議Proceedings数一覧（平成16～19年度）



(出典：平成20年度研究活性化委員会資料)

資料2-1-5 グループ研究評価項目

番号	評価項目	配点
1	外国語で書かれた学術論文*寄与率の合計 *寄与率 (First Author と Corresponding Author は1、 その他は0.3)	(12点/編*寄与率)の合計
2	日本語で書かれた学術論文*寄与率の合計 *寄与率 (First Author と Corresponding Author は1、 その他は0.3)	(6点/編*寄与率)の合計
3	編著書数	Monograph-type Book・・・20点/冊 Contributed Book・・・2点/冊
4	特許または実用新案出願数 *本学発明規則の規定に基づき、届け出たものに限る。	3点/件
5	作品公表数 (審査規定があるもの)	4点/作品
6	科学研究費補助金採択数 *継続分については、各々の年度毎に数える。	研究代表者・・・6点/件 研究分担者・・・2点/件

(出典：企画・評価室資料)

資料2-2-1 FEEMA施設利用状況

施設名	利用形態	平成21年度実績		平成21年度計画
		応募	採択	採択
FEEMA施設	トライアルユース	3件	3件	3件程度
	有償利用(産業)	2件	2件	1件程度
	有償利用(学術等)	1件	1件	1件程度

資料 2-2-2 センター等評価システム

1 趣旨

このシステムは、国立大学法人室蘭工業大学自己評価実施要項(平成17年3月29日学長伺定)第5条に基づき、毎年実施するセンター等の自己評価について必要な事項を定めるものとする。

2 対象となるセンター等

このシステムによる評価の対象となるセンター等は、次に掲げるセンター等とする。

- ・ 附属情報メディア教育センター
- ・ 地域共同研究開発センター
- ・ 機器分析センター
- ・ 保健管理センター
- ・ サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
- ・ 国際交流センター
- ・ 環境科学・防災研究センター
- ・ 航空宇宙機システム研究センター
- ・ 知的財産本部
- ・ キャリア・サポート・センター
- ・ ものづくり基盤センター
- ・ 全学共通教育センター
- ・ 技術部
- ・ 附属図書館

3 評価項目

評 価 項 目	
1	センター等の理念・目標 1-1 センター等の業務について、今年度を実施した取組を示す。
2	センター等の中期目標・中期計画・年度計画 2-1 センター等の業務に関連する中期目標・中期計画を示す。 2-2 前項を達成のための年度計画を示し、達成度を評価する。 2-3 年度計画の達成状況に基づいて、次年度の年度計画を示す。
3	センター等の管理運営（組織・機構）・財政 3-1 センター等の運営組織と運営方針を示す。 3-2 運営組織・方針から組織体制の妥当性を評価する。 3-3 センター等の業務を遂行するための予算構成を示す。 3-4 予算配分と執行のプロセスの明確性、透明性、適切性を評価する。 3-5 予算執行に伴う効果を評価する。 3-6 次年度以降に向けて、管理運営・財政の改善点を示す。
4	センター等の施設・設備 4-1 よりよい教育研究・社会活動を行うための施設・設備の管理状況を示す。 4-2 施設・設備の利用・管理状況の評価する。 4-3 施設・設備の整備計画策定状況を示す。 4-4 各施設の利用時間に対する配慮、利用者への周知を評価する。 4-5 安全・衛生を含む施設・設備等を維持・管理するための責任体制を評価する。
5	センター等の自己評価体制 5-1 自己点検・評価を恒常的に行うためのシステムを評価する。 5-2 自己点検・評価に、組織外の人意見を反映させる仕組みを示す。 5-3 次年度以降に向けて、自己評価体制・課題等の見直しを示す。
6	センター等の広報・情報公開 6-1 公表されている組織全体の成果物を示す。 6-2 センター等として、国内・国外への広報活動を評価する。
7	センター等全体としての今後の方向性 7-1 この組織の成果の定義、業務の進捗状況と業績のモニタ方法を示す。 7-2 達成されつつある（進行中を含む）成果を示す。

- | | |
|-----|-----------------------------------|
| 7-3 | この組織の差し迫った課題を示す。 |
| 7-4 | この課題を解決するための手段を示す。 |
| 7-5 | この組織を強化する、あるいは見直す（あるいは放棄する）ことを示す。 |

4 評価基準

評 点	評 価
4	取組状況が十分であり、目的の達成状況が適切である
3	取組状況がほぼ十分であり、目的の達成状況がほぼ適切である
2	取組状況に改善すべき点はあるが、目的の達成状況がおおむね適切である
1	取組状況にやや問題があり、目的の達成状況がやや不十分・不適切である
0	取組状況に問題があり、目的の達成状況が不十分・不適切である。

5 自己評価の実施

- (1) センター長等は、第3項の評価項目に従って毎年自己評価を行い、別添様式1「センター等評価書」により評価委員会に提出するものとする。
- (2) センター等評価書には、可能な限り根拠データを記載し、必要に応じ成果物等を添付すること。
- (3) 自己評価の対象となる期間は、毎年4月1日から12月31日までの期間とする。
なお、翌年の1月1日から3月31日までの期間については、その期間の業務取組の計画等について記述するものとする。
- (4) 自己評価書の提出期日は、毎年1月31日とする。

6 評価委員会から学長への報告

評価委員会は、提出された自己評価書を速やかに取り纏め、学長に報告するものとする。
なお、報告にあたり、必要な場合には、業務改善方策及び改善計画等の意見を付して学長に報告するものとする。

(出典：企画・評価室資料)

資料3-1-1 蘭岳コンサート実施状況

日 時	演 奏 者
平成21年7月18日(土) 14時開場、14時30分開演	大築 恵 ピアノ 菅原 正浩 サクソフォン 菅原 蘭子 クラリネット
平成21年10月2日(金) 18時開場、18時30分開演	松宮 路恵 ピアノ 武田 潤路 クラリネット、フルート 上村 威揮 ヴァイオリン 高橋 俊也 クラリネット、ピアノ 山川 泰明 ヴァイオリン 熊懷 正彦 チェロ 大橋 克哉 オーボエ 前田 睦 ピアノ 吉田紗恵子 ピアノ 大蔵 浩子 ボーカル 空閑 正子 ピアノ
平成21年11月28日(土) 14時開場、14時30分開演	安澤 瑞恵 ピアノ
平成22年1月29日(金) 17時30分開場、18時00分開演	川田 隆夫 ギター 阿部 裕子 ピアノ 越後小百合 ソプラノ 佐藤 邦子 ピアノ 佐土紀久子 ピアノ
平成22年3月6日(土) 14時開場、14時30分開演	田中 宏明 ピアノ

(出典：蘭岳コンサート実行委員会資料)

資料3-1-2 平成21年度胆振・日高管内高大連携協議会議事要旨(抜粋)

1. 開催日時 平成21年12月2日(水) 13:00~16:10
2. 会場 室蘭工業大学本部棟中会議室
3. 参加者
 - 高校側 日高教育局指導主事、室蘭栄高校副校長・教諭、室蘭清水丘高校教諭、室蘭東翔高校教諭、室蘭大谷高校教諭、海星学院高校教諭、静内高校教諭、平取高校教諭、白老東高校教諭、登別明日中等教育学校教諭、登別青嶺高校教諭、苫小牧東高校教諭
 - 室蘭工大 松山理事・空閑副学長、橋本教授、安居准教授
小出入試課長、齊藤入学試験係長
 - 報道関係 北海道新聞記者、室蘭民放記者
4. 議事
 - (1) 開会および出席者紹介
 - (2) 講演「理工系大学における初年次教育への取り組み」 空閑副学長
 - (3) 討論
 - ア 「高大連携・高大接続教育の可能性」
 - イ 「インターネット(e-learning)教材と高大連携」
 - ウ 質疑応答
リメディアル教育、数学物理教育、実験・体験教育、英語教育等に関する質疑
本協議会のテーマ選択、実施進展法についての意見交換

(出典：平成21年度胆振・日高管内高大連携協議会議事要旨)

資料3-1-3 国際学術交流協定機関一覧

【大学間学術交流協定】

機 関 名	国 名	協定締結年月日
オレゴン工科大学	アメリカ合衆国	昭和60年10月17日
河南理工大学	中華人民共和国	昭和63年11月11日
大連交通大学	中華人民共和国	平成8年10月1日
ロイヤルメルボルン工科大学	オーストラリア	平成11年3月26日
ウェスタン・ワシントン大学	アメリカ合衆国	平成12年10月27日
ヘルシンキ工科大学電気通信工学科	フィンランド	平成13年3月15日
グラナダ大学	スペイン	平成13年11月19日
マドリッド自治大学	スペイン	平成13年12月21日
北京科技大学	中華人民共和国	平成16年2月2日
ロストック大学情報電気工学部	ドイツ連邦共和国	平成16年2月20日
忠南大学校	大韓民国	平成16年4月20日
安東大学校	大韓民国	平成16年6月8日
釜慶大学校工科大学	大韓民国	平成16年9月1日
チェンマイ大学	タイ	平成17年4月19日
キングモンクット工科大学ラカバン	タイ	平成17年4月20日
ニコラエフ無機化学研究所	ロシア	平成17年5月30日
レオベン大学	オーストリア	平成18年10月10日
ミシュコルツ大学	ハンガリー	平成18年11月13日
ハノイ建築大学	ベトナム	平成19年3月27日
ソウル産業大学校	大韓民国	平成19年7月25日
ダルムシュタット工科大学電気情報工学部	ドイツ連邦共和国	平成19年11月9日
瀋陽工業大学	中華人民共和国	平成19年11月9日
華中科技大学	中華人民共和国	平成19年11月12日
蘇州大学	中華人民共和国	平成19年11月26日
内蒙古師範大学	中華人民共和国	平成20年6月2日
韓国海洋大学校	大韓民国	平成21年1月19日
AGH 科学技術大学	ポーランド	平成21年8月27日
極東工科大学	ロシア	平成22年2月19日

【三者間学術交流協定】

機 関 名	国 名	協定締結年月日
ニコラエフ無機化学研究所	ロシア	平成20年11月18日
産業技術総合研究所	日本	

(出典：国際交流センター資料)

資料3-1-4 シップリサイクル研究ポスター

① 海岸に廃棄を終えた船が横たわる ② 船の部品が野中に散乱する ③ 砂浜のあちこちで煙が上がる ④ 室蘭工業大学-清水造船社が発足させた室蘭シップリサイクル研究会。会には海上技術安全研究所や多くの地元企業が参加 ⑤ 室蘭工業大学もつくり基盤センターではシップリサイクルシンポジウムを開催した ⑥ シンポジウムを企画した清水造船社長

① Ships whose operational life is ended are stranded in a beach. ② Parts and other components of scrapped ships have been scattered in the beach. ③ Hazardous smoke from burning parts of scrapped ships has been seen everywhere at the beach. ④ Murooran Ship Recycling Study Group established by Dr. Shimizu, associate professor of Murooran Institute of Technology. ⑤ Ship recycling symposium organized by Manufacturing and Engineering Design Center of Murooran Institute of Technology. ⑥ Dr. Shimizu, associate professor of Murooran Institute of Technology plans the symposium.

Photo ①-③ by National Maritime Research Institute

Green Ship Recycling in Murooran!

船が生まれ変わるまち — 室蘭 —

開 発達上国の海岸では、寿命を終えた船舶が世界各地から送り込まれ、大海峽によって解体されています。先進国が使った船舶が途上国で解体され、アスベストやPCBによる環境汚染や死亡事故が続いています。設備が無くシステムが整っていない劣悪な労働環境の下に多くの命と健康が犠牲になっているのです。

船 船は、資材の約9割が再利用できる優良資源とも言われています。鉄鉱石やスクラップ鉄が高騰する中、廃船から出る鉄鋼の価値が高まっており、船のリサイクルには世界的に注目が集まっています。

日 日本は世界でも有数の造船・海運国です。また、港があり、工業大学や製鉄所、造船用、PCB処理施設を持つ室蘭は、環境に負荷をかけない方法で資源を生かす知識と技術を持っています。

途 上国での船の解体による環境汚染を食い止め資源を有効活用するために、私たちに何ができるのか。今、室蘭では、環境負荷を最小化し、安全に船舶を解体できる仕組み作りを進めています。室蘭工業大学と室蘭シップリサイクル研究会は、船舶のリサイクルを通じ、地球の未来のために貢献します。

O ld ships from all over the world are destined to be recycled at beaches in developing countries. Ships used in developed countries are scrapped in developing countries. Fatal accidents and environmental pollution by asbestos and PCBs are continuing in such area. And health and life of many labors are sacrificed by lack of sufficient facility and management system.

S hips are, in general, very good resources because more than 90 percent of their components can be recycled. Ship recycling, which provides valuable steel resources, is spotlighted in the world because of rising cost of ore and steel scraps.

J apan is one of the main shipbuilding and shipping country in the world. Murooran city, which has ports, institute, ironworks, shipbuilding yards and a PCB disposal facility, has sufficient experience and technology for environmentally friendly recycling.

W hat can we do for preventing environmental pollution from ship recycling in developing countries and effective use of resources? Currently, we are conducting, in a hurry, to establish the system for safe and environmentally sound ship recycling in Murooran. Murooran Institute of Technology and Murooran Ship Recycling Study Group contribute to the future of the earth throughout activity for ship recycling.

MUROORAN INSTITUTE OF TECHNOLOGY 国立大学法人 室蘭工業大学
室蘭シップリサイクル研究会 MURORAN SHIP RECYCLING STUDY GROUP

MUROORAN

室蘭市 (Murooran City)

室蘭工業大学 (Murooran Institute of Technology)

室蘭製鉄所 (Murooran Iron Works)

室蘭造船所 (Murooran Shipyard)

室蘭港 (Murooran Port)

(出典：室蘭シップリサイクル研究会資料)